

スーパーの パトロール

by 市村

私はたぶんスーパーが好きである。

スーパー好きだと気付いたのは、一人暮らしをしてからだ。お店によって品揃えに癖があり、目新しい商品を見つけるのが楽しかった。

特に、インスタントコーヒーとインスタントスープについては、あまり見かけない変わり種の商品を扱っている場合、ほかの商品においても総じて攻めの傾向にある、など勝手な法則を見つけ出し、新しいスーパーに行ったらその法則が適用されるのか、チェックしていたのである。

今でこそそんな覆面パトロールのようなことはしないけれど、新しいスーパーができたと聞けば、一度は足を運んでしまう。

最近のお気に入りのスーパーはロビアだ。安くて大容量なのが気に入りで、定期的に通っている。けれど、たくさん入っている、という安心感は逆にたくさん消費してもいいや、という気分につながり、結果として無駄使いになってしまう。

例えば豚汁を作るとする。豚肉は1パックで十分なんだけど、大容量パックの豚肉があると、いつもより多めに使ってしまう。

また、野菜炒めを作ろうと思ったけど、肉があるから入れてしまえとなる。そうすると肉にしる、野菜にしる、すべてを気前よく使うことになる。

結果として近所のスーパーで買い物した時よりもロビアで買ったときの方が物の減りが早く、予想より早く次の買い物に行く羽目になったりする。

また、この忙しい中で片道20分~30分かけてスーパーに行くというのも、なかなか贅沢な話だ。

そういうわけで、最近は偵察を兼ねてのスーパー選びというよりも、節約時短のスーパー選びにシフトし、近場のスーパーに行くことが圧倒的に多い。

なかでも一番近いスーパーは、住宅街にポツンと存在する妙な立地で、住宅街の高齢化とともに閉店になるんじゃないかと個人的に心配しているスーパーだ。

そのスーパーがなくなれば、どこのスーパーに行くにしる車が必要になるので、閉店は絶対に避けたい。

そんなわけで、私のスーパー通いは新しいスーパーの見学や品ぞろえの確認といったパトロールよりもスーパー存続のための応援運動という意味合いが強くなってきている。

